

ゴギ生息状況調査

曾田一志・福井克也・沖野 晃

1. 研究目的

中国地方に生息するイワナの亜種であるゴギは、島根県の河川に生息するが、自然林の伐採や、河川改修工事等により、その生息地や生息尾数の減少が危惧されており、しまねレッドデータブックにも絶滅危惧種¹⁾として掲載されている。一方で、溪流釣りの対象魚としての人気も高く、漁業権設定されている河川もあり、本種の保護や増殖に取り組むことは重要と考えられる。ゴギの生息状況についての調査は、保護区域で行われてきたが、局所的なものに留まっており、分布等の基礎的な情報については不足しているのが現状である。本調査では斐伊川水系を中心とした島根県東部河川におけるゴギの生息状況（分布、生息密度等）を把握することを目的とした。

2. 研究方法

調査は2013年5月14日～12月17日にかけて斐伊川水系、飯梨川水系で電気ショッカーを用いて行った。ゴギかどうかの判別は、特徴である頭部の白斑の有無によって行った。採捕後、麻酔処理（FA100）を行い、全長、尾叉長、体長、体重を測定し、覚醒後に速やかに放流した。また、採捕終了後にメジャーにより調査区間の河川長と流れ幅（20mごと）を計測した。

調査区間における生息尾数の推定はオンラインプログラム CAPTURE²⁾を用い、電気ショッカーによる2回以上採捕の除去法により算出した。

3. 研究結果

調査は13地点で行い、うち10地点でゴギの生息が確認された。生息が確認された河川で最も推定密度が高かった地点では14.2尾/100m²であった。生息が確認された地点で最も低かった密度は0.8尾/100m²であった。

ゴギが採集された地点のうち平均全長が最も大きかった地点では平均277.0mmで、最も小さい地点では平均116.1mmであった。9地点で、当歳魚若しくは1歳魚と考えられる小型魚が採集されたことから、これらの地点では再生産が行われていると推定された。また、斐伊川水系長谷川については、平成8年に行われた調査では生息が確認されていたが³⁾、今回の調査では確認されず、生息域の減少が危惧された。

4. 研究成果

本調査は（財）ホシザキグリーン財団の平成25年度委託研究として行われ、調査で得られた結果の詳細については財団に報告されたと共に、ホシザキグリーン財団研究報告第18号に掲載された。

5. 文献

- 1) 青山徳久：改訂しまねレッドデータブック（島根県環境生活部景観自然課監修）、（財）ホシザキグリーン財団、P75（2004）。
- 2) CAPTURE (<http://www.pwrc.usgs.gov/>)
- 3) 山根恭道、中村幹雄、向井哲也、清川智之、内田 浩：平成8年度島根県水産試験場事業報告、257-264（1998）。